

會務報告

第29卷第8號 昭和18年8月

役員會

第4回理事會 (昭. 18. 6. 14.)

出席者: 黒河内會長, 瀧淵理事外4名, 中村書記長, 小野寺庶務主任外2名

議事

1. 厚生省研究所圖書室發行の厚生科學と土木學會誌を第29卷第6號より交換することとせり
2. 戦時下調査部の強化を図ることとし次の如く要綱を決定せり

(1) 調査部に左記部員を置く

部員 若干名
幹事 1名

(2) 調査部部員は左記事項の調査研究をなす

- イ. 戦時下土木學會の爲す必要あるべき事項を調査検討し對策案を作製す
- ロ. 技術院其の他各方面より土木學會に對する諮問の對策案を作製す
- ハ. 必要に應じ技術院其の他への建議案を作製す

(3) 調査部幹事は前號に依る諸案の取り纏めをなし部員間の連絡に任ず

(4) 調査部部員及幹事は必要に應じ隨時會合をなすことを得

3. 土木學會戦時規格委員會を設置し次の如く要綱を決定せり

- (1) 土木施設の戦時規格を設定するため土木學會戦時規格委員會を設く
- (2) 規格設定の範圍は各種土木事業に共通關係あるものを主とす
- (3) 規格の設定は緊要のものより急速に行ふ
- (4) 委員會に委員長1名, 委員若干名, 幹事1名を置く

4. 土木學會戦時規格委員會委員長に青山 士君を依頼し委員の選定は委員長に一任することとせり

第5回理事會 (昭. 18. 6. 28.)

出席者: 黒河内會長, 鈴木副會長, 福田理事外2名, 中村書記長, 小野寺庶務主任外2名

報告

1. 日本工學會評議員會談事
2. 北海道支部講演會記事及幹事異動

議事

1. 日本工學會よりの申出でに依り土木學會誌登載の論說報告梗概を同會發行の「工學と工業」に掲載することとし著者に對しては編輯部長より梗概の添付を要望することとせり

2. 入退會を別記の通り承認

第6回理事會 (昭. 18. 7. 12.)

出席者: 黒河内會長, 鈴木副會長, 山下理事外2名, 中村書記長, 小野寺庶務主任外2名

報告

1. 關西支部第4回役員會及講演會記事
2. 中國四國支部徳島部會總會記事
3. 日本工學會社員總會談事

議事

1. 戦時規格委員會委員に別紙(省略)の諸君を依頼することとせり

2. 正會員有坂誠喜, 大場吉次兩君の一時納付會費240圓を基金に編入することとせり

3. 國民政府建設部長外3名に對し記念品を贈呈することとせり

總務部記事

午餐會 (内務省土木主任官會議關係招待) (昭. 18. 6. 24.)

會場: 大東亞會館(丸ノ内)

出席者: 岩崎雄治君外27名, 鈴木, 内海兩副會長, 瀧淵常議員外8名, 那波前會長外4名, 中村書記長, 小野寺庶務主任外3名

編輯部記事

日本工學會大會第1回土木部會講演委員會 (昭. 18. 6. 15.)

出席者: 福田委員長, 菊池日本工學會講演委員會委員, 五十嵐委員外8名, 中村書記長, 小野寺庶務主任

協議事項

1. 菊池委員より第5回日本工學會大會講演委員會に於ける協議事項の説明ありて議事に入り、土木部門の内容に就き第4回大會の各部門内容を参考として検討し次の如く決定せり

(1) 土木工學部門

土木一般、土木構造（橋梁を含む）、土木材料、土木施工法、國土計畫及都市計畫、鐵道、道路、飛行場、港灣、河川、水力發電、上下水道、測量等

(2) 應用力學部門へ「土質力學」を追加し「構造力學」の次に挿入すること

2. 爾後委員會は緊急問題の起らざる限り會誌編輯委員會と同時に開催することに申合せり

日本工學會大會第2回土木部會議講演委員會（昭.18.7.7.）

出席者： 福田委員長、五十嵐委員外8名、小野寺庶務主任

協議事項

1. 小野寺庶務主任より大會庶務委員會に於ける協議事項を報告し議事に入り、次の事項を決定せり

- (1) 講演數を30~40とすること
- (2) 1講演時間を20~25分、質問、交替時間共にて35分位とすること
- (3) 論文募集を可成的8號會誌に會告する様善處すること
- (4) 論文應募期日を10月末日とすること
- (5) 土木部會議講演使用室（應力を含まず）は第4回と同様數とすること 以上

第7回會誌編輯委員會（昭.18.7.7.）

出席者： 福田委員長、新井、五十嵐、須之内、杉戸、丹羽、藤森、本間、最上各委員、村上編輯主任、鹽谷、梅津、鈴木、内村各囑託

1. 第29卷第6號登載原稿謝禮決定の件
2. 第29卷第6號登載論文の討議依頼先決定の件
3. 原稿審査報告及び第29卷第9號、第10號登載原稿決定の件

調 査 部 記 事

第1回昭和17年潮害調査委員會（昭.18.6.25.）

出席者： 金子委員長、青木前理事、水谷委員外2名、石井幹事、中村書記長、小野寺庶務

主任

協議事項

1. 青木前理事より本委員會設置の趣旨に關し説明あり、調査方針に就き協議せり

2. 次回具體案に就き更に検討することとせり

第2回昭和17年潮害調査委員會（昭.18.7.6.）

出席者： 金子委員長、青木前理事、黒田委員外2名、石井幹事、中村書記長、小野寺庶務主任

協議事項

1. 調査方針、範圍、分擔を別紙（省略）の通り決定
2. 委員若干名追加を行ふこととせり

關 西 支 部 記 事

第4回役員會（昭.18.6.26.）

出席者： 高橋支部長、櫻井商議員外5名、中島幹事外2名

報 告

1. 講演會開催

議 事

1. 商議員渡邊榮五郎君退任、板橋三郎君新任

第16回通俗講演會（昭.18.6.26.）

會 場： 奈良公會堂

講 演： 1) 上代の都制に就て 松崎宗雄君

2) 歐洲に於ける戦争と土木 立花次郎君

映 畫： 日本ニュース、文化映畫やまと

參會者： 1180名

北 海 道 支 部 記 事

講演會（昭.18.6.19.）

會 場： 札幌商工會議所

講 演： 1) 大東亞戰爭下の金融 井上敏夫君

2) 人造石油に就て 常岡俊三君

3) 三角網の調整計算に就て 板倉忠三君

參會者： 97名

幹事異動

高橋敏五郎君退任 上戸斌司君新任

中 國 四 國 支 部 記 事

德島部會第2回總會（昭.18.6.6.）

會 場： 德島高等工業學校講堂

會務報告及議事： 役員異動、收支決算、收支豫算及

事業

- 講演： 1) 工業立地の研究と廣島工業港修築の状況 竹内常八君
 2) 戦時下に於ける土木材料に就て 青木楠男君
 3) 時局と防災 水谷 鏞君

- 映 畫： 1) 水防訓練
 2) 鴨綠江大水力發電工事
 3) 水禍天津
 4) 歐洲とところどころ (天然色映畫)

視 察： 鳴門海峡陸道豫定地

參會者： 230 名

議 事

1. 事業に關する件
2. 特別會員に關する件
3. 地方委員運用に關する件
4. 會員入退會の件
5. 其 他

日本工學會記事

第 7 回評議員會 (昭. 18. 5. 31.)

議 事

1. 化學機械協會加入承諾の件
2. 上半期職員手當の件

滿洲土木學會記事

第 5 回常議員會 (康. 10. 6. 18.)

出席者： 本間會長，鈴木，坂上兩副會長，大野常議員外 6 名，廣岡書記長外 1 名

そ の 他 記 事

土木學會誌第 29 卷第 7 號を發行成規の手續を了し會員に配布せり

入 會 及 轉 格 會 員

特 別 會 員 (入 會)

華北電信電話股份有限公司 井上乙彦 1 級 華

正 會 員 (入 會)

荒谷富治	飯淵一	磯川久	岩城達夫	井村敏影
石村哲雄	高橋藤平	木村屯	森田宗二郎	吉田直茂
中村千尋	中村正二	太田義勇	津田賢次	中山信喜
堀川一太				

准 會 員 (入 會)

漢川浩平	飯田博昭	岡元北海	貝島俊雄	新明政典
鈴木喜昭	西村俊夫	星川武一郎	三谷熊太郎	村岡釐明
山西總太郎	吉川吉三	米村章	上條金之助	川西明
村上喜一				

學 生 會 員 (入 會)

安藤立一	今瀧淳	尾上吉照	大濱文彦	渡邊晃一
都城昌浩	加藤義直	甲斐節男	甲斐正義	片田畑隆
金輪辰男	神崎忠義	神田信和	川口富貴男	川畑淵信
九谷光次	串山純孝	楠部和彦	楠元孝夫	田清水
木島久治郎	湯淺新六	荒木	清水	

に關し説明

いせり
18. 7. 6.)

田委員外 5
寺庶務主任

の通り決定

名, 中島幹

新任

崎宗雄君
花次郎君

上敏夫君
岡俊三君
倉忠三君

支豫算及

辰小谷前	己泉垣	正久高	直平介	原嶋永	田後富	賀一雄	飯高西	田關藤	五勝尙	九行敏	郎行敏	神高久	吉田本	滿賀仁	志賀仁	木竹細	村田谷	浩好榮	策夫一
谷前	垣	浩	介	永	富	雄	西	關	尙	行	行	久	本	賀	賀	細	田	榮	勝
椎	田	浩	稔	御	田	交	佐	藤	八	敏	敏	佐	野	英	男	坂	代	重	博
谷	葉	文	忠	島	水	清	島	本	信	義	義	田	川	俊	一	中	村	隆	隆
馬	場	文	夫	堤	良	保	鶴	眞	佐	信	信	德	不	二	夫	福	田	隆	隆
古	田	場	哲	馬	富	美	島	中	豐	之	一	平	野	淳	一	水	野	茂	茂
晦	日	日	堅	本	安	次	松	野	忠	行	行	松	本	孝	男	宮	陽	八	八
村	上	上	博	溝	口	彦	南	芳	忠	智	智	宮	川	四	達	大	浦	國	國
山	田	田	三	本	幡	功	八	田	芳	仁	仁	矢	野	正	夫	三	田	俊	俊
宮	内	内	吉	山	本	文	吉	木	田	廣	廣	西	金	夫	夫	石	原	長	長
岩	下	下	雄	春	村	彦	麻	島	政	男	男	荒	村	精	精	小	金	二	二
尾	崎	崎	照	岩	村	巖	上	生	康	秋	秋	上	木	郎	郎	笠	太	太	太
中	野	野	一	馬	場	一	押	村	五	郎	郎	兜	崎	雄	雄	城	清	清	清
山	田	田	男	福	成	美	宮	川	千	二	二	山	崎	雄	雄	山	守	守	守

正會員 (轉格)

重田 勝 浩

准會員 (轉格)

石田秀雄	坂本充	丸橋幾四郎	角會山	原我田	健部廣賀	司美賀	橋高山	川橋本	雅辰康	治雄之	小都米	寺筑山	大開重	吉司春	小中本	寺條田	一清敏	男德敏
------	-----	-------	-----	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

土木學會會員數

名譽會員	正會員	准會員	學生會員	特別會員	贊助會員	合計
5	4 632	4 657	2 885	184	25	13 708

正會員 兵藤末吉君は昭和 17 年 12 月 20 日作戰地に於て戰死せられたり
本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

正會員 伊藤信吉君, 川口廣一君, 成田直三郎君, 西山忠一君, 温井 忠君,
和田堯春君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

准會員 菅野公二君は昭和 17 年 12 月 16 日 南太平洋方面に於て戦傷死せられたり 本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

准會員 清水元治君は戦死せられたり 本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

准會員 矢野典弘君は昭和 18 年 1 月 26 日 南方に於て戦死せられたり 本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

准會員 氏原晴信君, 中村耕三君, 森 正君, 原田良種君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

會員轉居轉勤の場合の御注意

御轉居又は御轉勤の場合は即時明細に御通知下さる様御願ひ致します。

會費納付に就き御注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分	第 2 期分
			(1月~6月)	(7月~12月)
	正會員	金 12 圓	金 6 圓	金 6 圓
	准會員	金 9 圓	金 4.50 圓	金 4.50 圓
	學生會員	金 6 圓	金 3 圓	金 3 圓

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分 : 3 月 第 2 期分 : 9 月

納付方法 振替用紙を御送り致しますから旅行等にて御不在の場合でも御拂込に支障なき様御配慮願ひます。

振替貯金の御拂込は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

支那方面其他振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は爲替その他の方法に依り御送金を願ひます。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知を願ひます。

會誌未着の場合の御注意

會誌は毎月 1 日に発行し洩れなく配布致しますから、未着の場合には一應本會に御照會願ひます。発行後相當日數経過しての御申込は時に殘部皆無となり再配布不可能の場合があります。

圖書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の圖書及雜誌は本會圖書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから、御利用を御願ひ致します。

自 9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時 自 7月21日 及土曜日 自午前9時至午後4時
自 1月1日至 7月20日 至 8月31日

但し 日曜及祭日は休み

圖書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の圖書雜誌を整理し、圖書室を設備致してあります。又本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介致して居りますから、會員の著書其の他圖書雜誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 寸法徑 14 mm
2. 品種 洋白地金文字浮出し
3. 實費 金 85 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 17 錢を要す)

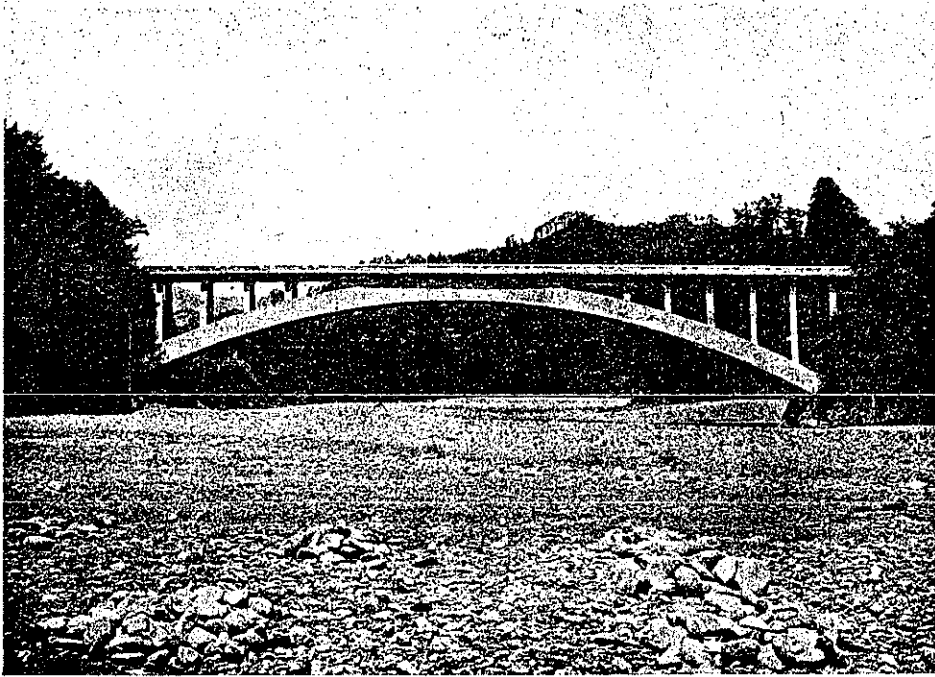


(價物大)

寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
 2. 頁數 頁數は圖表を含み本會誌 15 頁（原稿用紙 90 枚）以内とされ度し。若し前記頁數を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
 3. 文體 文體は文章的口語體とす。本文に重要な關係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基き適當の字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
 4. 書體 横書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば n と u , u と v , r と v , a と α , r と γ , d と δ , その他 C と c , K と k , O と o 等頭字と小字とを判然たらしむる事。
 5. 數字名數 數字は 3 桁毎に間隔をあげる事。名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。
例へば
35 錢(三十五錢), 13.56 圓(十三圓五十六錢), 1~4 時間(一時間乃至四時間),
88,326 t (八萬八千三百二十六噸), 昭. 14. 1. 1. (昭和十四年一月一日),
 m (米), m^3 (立方米), kg (珎), 83.4 尺 (八丈三尺四寸)
 6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し (本會制定用語は本會發行の土木學用語集参照)。
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
 7. 圖表 (1) 圖表は圖-1, 表-1 等と書き圖表題を記すこと。
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。
(3) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシングペーパー、オイルペーパー、トレーシングクロス等とすること。
(4) 圖表は凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さざる事。
(5) 方眼紙は青罫のものを用ひ (黄色、赤色の罫は使用せざる事) 縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。
(6) 圖表の文字數、字は特に大きく書かれ度し。縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し。
(7) 圖表類は版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
 8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
 9. 其の他 (1) 論說報告は邦文に限る。
(2) 講演及論說報告には必ず英文表題及邦文要旨並に著者の職名勤務所名を添附され度し。
- 附記 (1) 論說報告、彙報、時報、抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。
(2) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には別刷 30 部を寄稿者に贈呈致します。

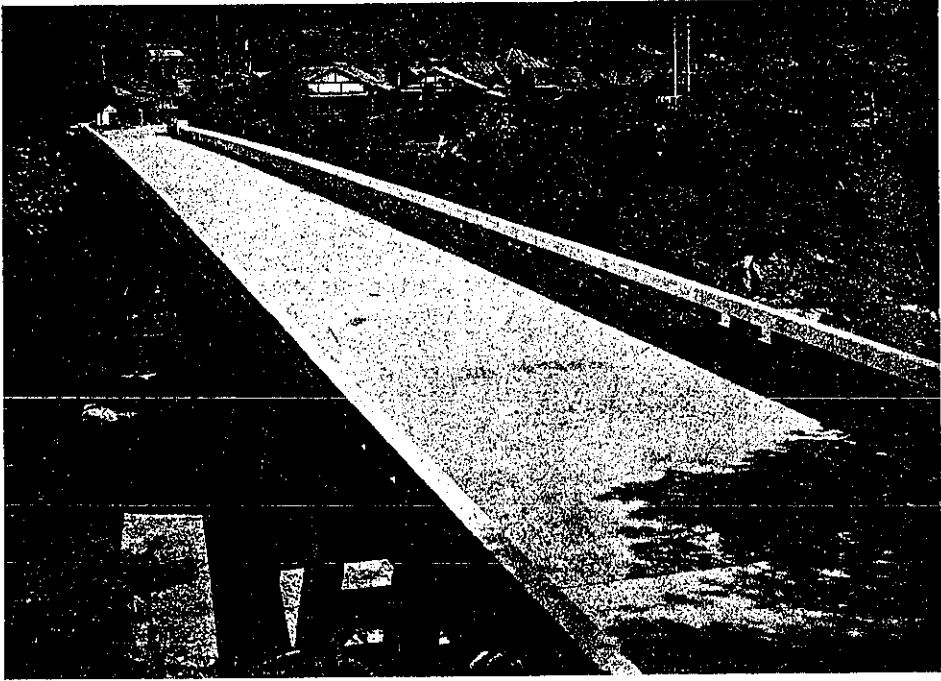
東京都萬年橋補強成る



本橋は明治40年竣工の二鈎鋼構肋拱橋を鉄筋コンクリートを以て補強せるものである。

位置： 東京都西多摩郡青梅町，吉野村入會（多摩川本流）
路線： 府縣道第98號青梅，御嶽線
橋格： 二等橋
橋型： メラン式鉄筋コンクリート二鈎圓形拱
橋長： 89.100 m
有效幅員： 5.500 m
支間： 75.780 m
拱矢： 10.550 m

萬年橋正面圖



工 期： 1 年 10 ヶ月
（昭和 18 年 4 月 30 日竣工）
工 費： 104 410 圓 (213 圓/m²)
材 料： 鋼材 100.14 t
 { 丸 鋼 74.44 t
 { 舊橋鋼材 25.70 t
 セメント 5 000 袋
勞務者延員數： 4 360 人
拱肋寸法： 高 2.100 m, 幅 1.000~1.500 m

正誤訂正表

機械的圖上計算法による複合三角網の迅速且つ嚴密なる調整計算に就て (1 及び 2)

(第 29 卷第 1, 2 號所載)

四邊形の測量調整に就て

(第 29 卷第 3 號所載)

號	頁	訂正箇所	誤	正
1	44	12 行目	d_{st}	$d_{st}-2$
	46	18 行目	v	v_7
	47	14 行目	$-\Delta_0 K_{s_0}$	$-\Delta_1 K_{s_0}$
	47	16 行目	$+\Delta K_{s_0}$	$+\Delta_7 K_{s_0}$
	50	5 行目	K_{st} の欄を K_{st} で塞ぐ	K_{st} の欄を d_{st} で塞ぐ
2	81	表-3 欄 (3)	9.7065 919	9.7066 035
	"	" 欄 (13)	9.6549 582	9.6549 532
	"	" 欄 (10)	-41.5917	41.5917
	"	" "	-78.1448	-78.4448
	"	" 欄 (11)	3.6491	3.6481
	"	" "	5.2970	5.2900
	"	" "	5.0716	5.0176
	82	7 行目	$K_2 =$	$K_2 =$
	83	下より 14 行目	1.647	1.642
	"	下より 9 行目	-0.0739	-0.0173 9
	"	下より 6 行目	0.434	0.431
	84	表-4 欄 (3)	9.6886 382	9.6886 376
	"	" "	9.7594 857	9.7574 857
	"	" 欄 (11)	1.4984	1.4884
	"	" "	1.4984	1.4884
	"	" "	0.3264	0.3249
	"	" "	16.7881	16.7281
	"	" 欄 (13)	9.7594 894	9.7574 894
	"	" 下欄 $\sum v \cdot v =$	125.2329	125.2729
	85	下より 3 行目	-8	-3
	86	8 行目	$(-4+0.4+0.5-13)$	$(-4+0.4+0.5-1.3)$
	87	18 行目	0.16×0.8	-0.16×0.8
	88	23 行目	圓 S_0 外の	圓 S_1 外の
	92	表-5 欄 (2) 三角形 2	180 00 03	179 59 56
	92	" 欄 (3)	9.8426 679	9.8426 677
"	" 欄 (11)	6.1099	6.1009	
"	" "	0.1286	0.1296	
"	" 下欄追加		$\sum \Delta \cdot v = -262.7088$	
"	" 下欄	$\sum v \cdot v = 108.5934$	$\sum v \cdot v = 108.5944$	
"	" 欄 (6) 角 5 に追加		402.8049	
"	" 欄 (5)	-18.3	-18.31	

頁	訂正箇所	誤	正
93	下より 7 行目	$K_5=0.75$	$K_5=-0.75$
95	15 行目	18.31×1.8	-18.31×1.8
"	18 行目	$-0.1234 57 \times 0.11$	$+0.1234 57 \times 0.11$
"	下より 16 行目	$-0.3301 348 \times (-0.0033)$	$+0.3301 348 \times (-0.0033)$
96	下より 16 行目	圓 S_5 外の	圓 S_5 外の
98	表-6 欄 (2) 三角點番號 2 の觀測値の和	179 39 56	179 59 56
"	" 欄 (3)	$\omega_5=-6$	$\omega_5=-5$
"	" 欄 (9)	- 1.37	- 1.32
"	" 欄 (10)	-61.7110	-61.7100
"	" 欄 (11)	1.8769	1.7424
"	" 欄 (6)	4.3214	4.3264
99	下より 16 行目	$K_{(3)}=6/3=3.0$	$K_{(3)}=6/3=2.0$
"	" 15 行目	$K_{(6)}=6/3=2.0$	$K_{(6)}=-4/4=-1.0$
102	3 行目	計算例 ~2	計算例 1~2
104	下より 6 行目	S_5	S_n
"	(15) 式 1 行目	$0.75 \omega_{(2)}+0.75 \omega_{(2)}$	$0.75 \omega_{(2)}+0.75 \omega_{(5)}$
204	下より 7 行目	圖外に	圖形外に
205	表-3 欄 (3)	9.9921 767	9.7921 775
"	" 欄 (8) 第 2 欄	-3.380	-3.409
"	" 欄 (8) 第 2 欄	-2.645	-2.616
"	" " "	-0.7644	0.029
"	" " "	0.029	-0.7644
"	" 欄 (10)	4.32	-4.32
"	" 欄 (6)	$d_5=172 981.18$	$d_5=17 297.18$
207	表-4 欄 (3)	9.8407 199	9.8407 511
"	" "	9.9921 767	9.9921 775
"	" 欄 (8) 第 1 欄	-3.637	+3.637
"	" " "	-3.188	+3.188
"	" " "	-1.048	+1.048
"	" " "	-4.793	+4.793
"	" 欄 (13)	9.8407 081	9.8407 193
"	" "	9.9921 753	9.9921 761
209	下より 14 行目	-4.6	-4.5
210	下より 16 行目	-0.073	-0.078
211	1 行目	-7.3	7.3

圓形填充物をもつた平板の 1 問題の最小仕事原理に依る解法
(第 29 卷第 4 號所載)

頁	訂正箇所	誤	正
333	脚註	Stresses.....	“Stresses.....
336	2 行目	喰違ひ	喰違ひ
337	4 行目	$-\left(\frac{\beta}{\alpha}\right)^8$	$-\left(\frac{\beta}{\alpha}\right)^8$
338	(4-10) 式の 1 行目	$E_{42} =$	$F_{42} =$
339	(5-3) 式中	$\frac{\partial W_2}{\delta V}$	$\frac{\partial W_2}{\delta V}$
339	(6-1) 式の 2 行目	$\frac{\delta r r'}{\delta V}$	$\frac{\delta r r'}{\delta V}$
340	2 行目	$4(1-2\sigma)$	$4(1-2\sigma)$
340	17 行目	D_0	D_{00}
340	20 行目	$D = D_0$	$D = D_{00}$
340	(7-1) 式中	K	$\frac{K}{D_0}$
340	(7-2) 式 1 行目	$D_0 =$	D_{00}
341	(7-4) 式中	K	$\frac{K}{D_0}$
341	下から 2 行目	究極	窮極
342	12 行目	E_{t_2}	F_{t_2}
342	13 行目	E_{t_2}	F_{t_2}

土木防空資料 1-2-2 彈道
(第 28 卷第 12 號卷末所載)

頁	訂正箇所	誤	正
5	上より 2 行目	$V=0$	$V_x=0$
”	上より 12 行目	$\cosh u = e^{\frac{zg}{Vm^2}}$	$\cosh u = e^{\frac{zg}{Vm^2}}$
”	其の次の式	$\frac{-2zg}{e Vm^2}$	$\frac{-2zg}{e Vm^2}$
”	其の次の式 (15)	$\frac{-2zg}{e Vm^2}$	$\frac{-2zg}{e Vm^2}$
”	(16) 式	$m \frac{d^2 x}{dt^2} = -Rx$	$m \frac{d^2 x}{dt^2} = -Rx$
”	”	$Rx = R \cos \theta = \dots$	$Rx = R \cos \theta = \dots$
6	(19) 式	$x = V_0 \{ \dots \}$	$x = V_0 \frac{V_m}{g} \{ \dots \}$
”	(20) 式	$\frac{2zg}{e Vm^2 - 1}$	$\frac{2zg}{e Vm^2} - 1$
8	圖-3	落速	落速(水平分速)
”	圖-4	落速	落速(鉛直分速)

河西橋に関する報告及び研究 (其の 3)
 橋體施工狀況概要と假橋用木造構拱に就て
 (第 29 卷第 2 號所載)

頁	行	誤	正
147	上より 1 行目	$3.75-2.75 \lambda$	$375-2.75 \lambda$
"	" 2 "	$(3.75+0.0075)$	$(3.75+0.0075 \lambda)$

管内亂流に於ける熱の移動とエネルギー輸送との類似に就て
 (第 29 卷第 2 號所載)

頁	行	誤	正
387	下より 6 行目	常數と考へる	常數と考へられる
388	上より 14 "	されてゐるが ² ,	されてゐるが ³ ,
389	下より 10 "	$\left\{ \frac{60}{49} \left(\frac{s}{r_0} \right)^{1/7} \right\}$	$\left\{ \frac{60}{49} \left(\frac{s}{r_0} \right)^{1/7} \right\}^3$
"	" 5 "	$\int_{(A)} \rho \theta \left(\theta + \frac{\partial \theta}{\partial x} \Delta x \right) u dA$	$\int_{(A)} \rho c \left(\theta + \frac{\partial \theta}{\partial x} \Delta x \right) u dA$
393	" 1 "	$0.00302 R_e^{-0.1}$	$0.00302 R_e^{-0.1}$
394	上より 2 "	$1410 \cdot 10^{-3}$	$1.410 \cdot 10^{-3}$
395	" 3 "	J. Nikurodse	J. Nikuradse